
[成果情報名] イネウンカ類の捕食性天敵カタグロミドリカスミカメおよびムナグロキイロカスミカメの幼虫の識別法

[要約] 長距離飛来性イネウンカ類の卵捕食性カスミカメ類のカタグロミドリカスミカメとムナグロキイロカスミカメの幼虫は刺毛の長さで識別できる。

[キーワード] イネ、カタグロミドリカスミカメ、ムナグロキイロカスミカメ、幼虫、識別法

[担当部署] 病害虫部

[連絡先] 092-924-2938

[対象作目] 水稲

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

[背景・ねらい]

イネウンカ類の卵捕食者としてカタグロミドリカスミカメ（以後カタグロ）とムナグロキイロカスミカメ（以後ムナグロ）が知られており、成虫については2種の識別が肉眼で可能である。しかし、成虫密度は低いため、成虫による発生実態の把握は困難である。一方、幼虫密度は高いが形態が記載されていないため、2種幼虫の識別ができず、圃場での発生実態は明らかでなかった。

そこで、幼虫の識別法を確立し、これらの天敵の保護、利活用の基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1．カタグロの幼虫では頭部、胸部、翅包上などの体背面の刺毛が短く、刺毛が相互に接触または交差することはほとんどない（図1）。
- 2．ムナグロの幼虫では頭部、胸部、翅包上などの体背面の刺毛が長く、刺毛が相互に接触または交差する程度の長さがある（図1）。
- 3．このような刺毛の特徴は若齢から老齢までの幼虫に共通して見られ、2種幼虫の識別が可能である。

[成果の活用面・留意点]

- 1．これまで不明であった捕食性カスミカメ類の圃場における生態解明が進み、イネウンカ類の天敵保護、利活用が可能となる。
- 2．2種のカスミカメ類の識別はプレパラート標本を作製して行う。
- 3．プレパラート標本の封入液としてガム・クロラール液（宮崎、1988）が適切である。この封入液で作製した標本は1年後でも標本の状態がよく保たれる。

[具体的データ]

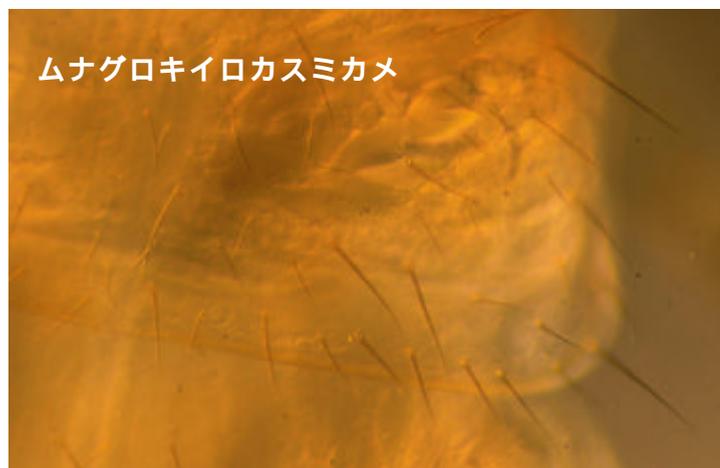
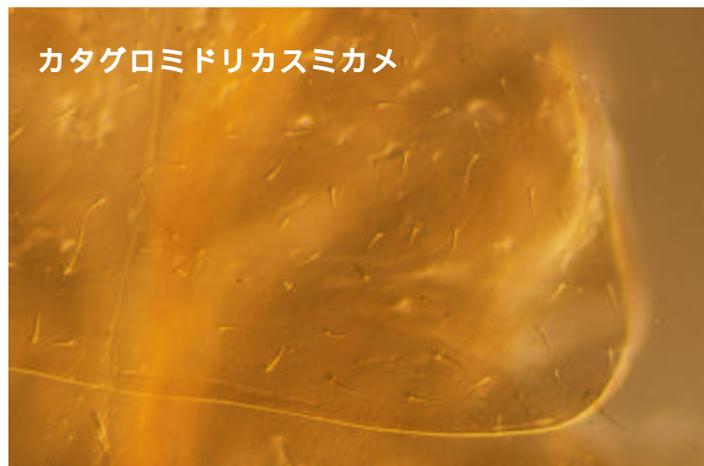


図 1 イネウンカ類の捕食性カスミカメ 2 種の 5 齢幼虫前胸背面の刺毛 (200 倍)

[その他]

研究課題名：総合的病害虫管理技術の確立・実証

予算区分：独法受託 (IPM プロジェクト)

研究期間：平成 15 年度 (平成 12 ~ 15 年)

研究担当者：中村利宣、村上英子

発表論文等：九病虫研会報 49, 77-82 (2003) .